

農業遺産から見る
**地域の特色を生かした
持続的農業・林業・水産業**

はじめに

農業の果たす役割

人々は自然環境に合わせ、課題を克服しながら農業を営んできました。農業は食料の生産だけではなく、その地域特有の伝統文化（祭りや慣習、郷土料理等）を生み出し、風景を築き、様々な生きものたちの命の拠り所をつくってきました。それが、地域の持つ特色・魅力を育ててきました。

地域の特色と農業の関係



例えば、南西諸島では「温暖な気候」だからこそ「さとうきび」という特産品が生まれます。「台風が多い」という地域課題があるからこそ「風に強い伝統的な家」が生まれ、「風に強い伝統的な家」は多くの観光客をひきつけます。このように、地域の特色は、自然環境や地域課題との深い関係から生み出されているものです。

世界農業遺産・日本農業遺産と地域の特徴

社会や自然環境に適応しながら 『何世代にもわたって継承されてきた独自性ある伝統的な農林水産業』 『伝統的な農業によって育まれた文化』 『農業によって作られた景観』 『生物多様性』 これらが関連して一体となり、地域の特色となっている重要な地域を「世界農業遺産」「日本農業遺産」に認定しています。



世界農業遺産の認定基準

1. 食料および生計の保障

地域の農林水産業システムによって食料が生産され、
農林水産業を営む人々が生計を立てていること

2. 農業生物多様性

地域の農林水産業システムによって、多様な生物が育まれていること

3. 地域の伝統的な知識システム

農林水産業を営む上での知識、技術などが維持されていること

4. 文化、価値観および社会組織

農林水産業に伴う文化や風土、社会の組織などが維持されていること

5. ランドスケープおよびシースケープの特徴

長年にわたる人と自然の相互作用によりつくられる、すぐれた景観を有すること

農業遺産は社会や環境
の変化に合わせて進化
していくから、「生きて
いる遺産」ともいわ
れているよ。



日本農業遺産の認定基準

世界農業遺産の5つの認定基準に、自然災害、高齢化、過疎など日本が抱える問題の解決につながる3つの基準が加わります。

6. 変化に対するレジリエンス（回復力、復元力）

自然災害などの環境の変化に対して、高い「回復力」「復元力」があること

7. 多様な主体の参画

地域住民だけでなく、様々な人々の参加によって独創的な農林水産業システムを受け継いでいること

8. 6次産業化の推進

地域ぐるみの6次産業化などで地域を活性化させ、農林水産業システムの保全を図っていること

6次産業化って何だろう？



【6次産業化とは】

生産物の価値を上げるため、農林漁業者等が、農畜産物、水産物の生産（第1次産業）だけでなく食品加工（第2次産業）、流通・販売（第3次産業）にも取り組み、それによって農林水産業を活性化させ、地域の経済を豊かにしていこうというものです。1次×2次×3次＝6次から名付けられました。



酪農



地元野菜



加工



地元野菜を使ったジェラート

神奈川県伊勢原市の例

九州地方（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

それぞれの地域で
どんな農業が
行われているのか、
想像してみよう！

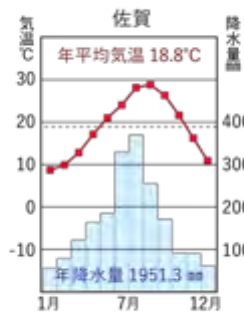


九州地方の地理的特徴と代表的な農林水産業

九州地方は近海を流れる暖流のため、冬でも比較的温暖で梅雨から台風の多い9月頃までの時期にかけては雨が多く降ります。また、火山活動に由来する地形も多く、人々の暮らしも火山の影響や恩恵を受ける特徴があります。

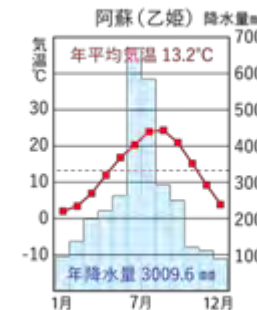
筑紫平野

九州有数の穀物の産地。平均気温が17.0℃（福岡市）と温暖なため、米の収穫後に違う作物を栽培する「二毛作」も盛んです。



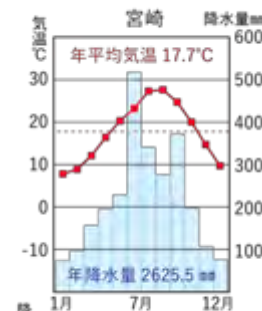
阿蘇山のカルデラ

平均気温13.0℃と冷涼で、比較的雨量が多いのが特徴です。カルデラ内の平地では米づくりやトマト、いちごの生産が盛ん。元々は火山の影響でできたやせた大地です。



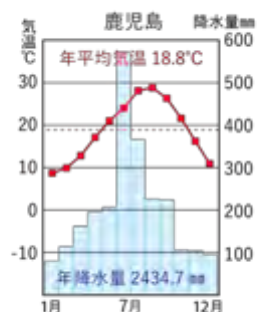
宮崎平野

1年を通して温暖で日照時間が長いのが特徴です。特に冬に快晴が多く乾燥した西風が吹きます。



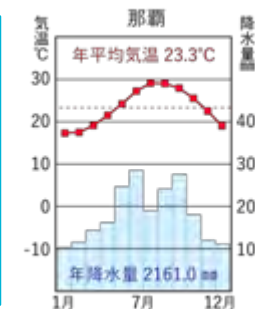
シラス台地

火山灰や軽石など火山噴出物が堆積してできた台地です。水はけが良過ぎるため、水が大量に必要な作物は適しません。



南西諸島

1年を通して温暖です。年間降水量は多いですが、サンゴ礁が発達してできた島なので、水が地中にしみこみやすく、長大な河川もないことから水に恵まれません。



九州地方（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

阿蘇のカルデラの農業例

熊本県阿蘇地域

阿蘇の草原の維持と持続的農業

世界農業遺産

人々が、暮らしや農畜産業のために「草」を利用してきたことで維持されてきた景観と、多様な動植物が生息する豊かな草原の環境がおよそ1000年以上にわたって守られてきました。



日本最大級の草原 阿蘇



あか牛の放牧



九州地方（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

「草原の維持」 キーワードは「放牧」「採草」「野焼き」

放牧



放牧は、春から初冬にかけて行われます。草原に放たれた牛は1日に40～50kgの草を食べながら、3～6kmほど移動して暮らし、成長します。

採草



草原の中には、牛を放牧する「放牧地」と草を刈る「採草地」があります。採草地では春（5月頃）から年間を通して草刈り作業が行われます。

野焼き

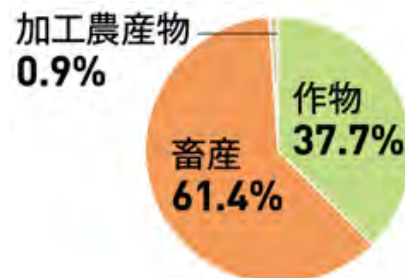


毎年、春を迎える2月後半から4月に草原に火を放ち、枯草や低木を焼いて害虫を駆除する草原管理の技術です。

自然を生かした阿蘇地域の産物

阿蘇地域は本来、耕作地として不向きな栄養の乏しい火山性の土壌でしたが、長い年月をかけて草の力を中心に豊かな田畑に改良しました。現在、米づくりや涼しい気候風土を生かした野菜の生産が盛んに行われています。

阿蘇市の農業産出額の内訳



（令和3年市町村別農業産出額（推計）より）